

---

小 池 昌 人

議長（村松 積） 次に、1番、小池昌人君、質問を許します。登壇願います。

1番（小池 昌人） 1番、小池昌人です。

6月に行われました村長選挙では、伊藤村長の4期16年のすばらしい実績と、先ほども村長自らおっしゃられておりましたように、常に「新しい風」「新しい思想」という方針が支持され、75.3%という得票率で見事当選され、5期目のスタートを切られました。

さらに住んで良かった、そして住民の瞳輝く下條村になるようご活躍されることをご期待いたします。

私は、先に通告してありますとおり、村の人口増対策について、関連した3項目について質問いたします。

今、世界の人口は67億人余と推定され、1分間に140人、1日で200万人、1年で8,000万人増えているということですが、一般に発展途上国と言われている地域では、人口が増加し過ぎて問題となり、先進諸国といわれている国では、少子化の傾向から人口減少となっているようです。

日本では、2005年から人口減少数値になり、少子高齢化社会になったと言われ出しましたが、地方ではずっと以前から人口減少問題、過疎化問題があり、どこの自治体でも人口増対策が取りざたされてきました。

下條村では、いち早く取り組まれ、若者定住住宅や子育て支援策等が総合的に功を奏し、人口増に転じ、全国でも注目される下條村になってきました。

その中で、若者定住促進住宅（メゾンコスモス）建設計画についてですが、村内企業に働く単身向けの企業用集合住宅として、第11メゾンコスモスが計画され、建設の方向であり、村内企業が優秀な人材の確保により地域産業の活性化につながり、また優良企業の誘致における生活環境の条件改善となり、誘致の契機となると思われま。

既存企業の意向として「そのような住宅がいくらでも欲しい」という要望があるという説明でしたが、今後も企業向け集合住宅の計画をなされていく考えであるか。また一般用の集合住宅の計画についてどのように考えていらっしゃるか。

一般向け用集合住宅は、一応の成果により戸建て住宅政策に切り替えていく方針である

と受け止めるがいかがでしょうか。

その際、戸建て住宅促進について、定住人口増という政策から新中原地区を含む周辺に成果があり、また大原団地が一応の成功を収めつつありますが、頑張る地方応援プログラムの中の若者定住促進プログラムにおいて、「子育て世代を支援する施設、施設の充実を図り、若者が定住できる村づくりを推進する」とあり、村営住宅入居者の戸建て住宅取得により「1割定住する」を成果目標と掲げています。

若者が戸建て住宅の建設や住宅用地を取得したり、また帰省し同居のために増改築するといった定住行為に対する補助について、「個人に税金を使うのはどうかということもあるので、検討する問題もある」というお考えを示されたことありますが、それらに対する補助施策をするお考えはないかお尋ねいたします。

次に、結婚問題についてですが、人口増の基本要素は結婚により居住し、お子様を生み育てていくことにあると思いますが、結婚しない若者も多く、晩婚傾向や出生率の低下等により人口減少につながっているかとも思われます。村内にも未婚の方が多く見受けられ、その方々が結婚され、お子さんをもうけられれば、単純ではありますけれども人口増につながるわけです。それぞれの諸事情もあるわけでそうならないかと思えます。

多くの自治体でも、以前は結婚相談員などの組織を設置し取り組まれましたが、今のところ成果が上がっていないのが実情であろうと思えます。

家庭の状況やプライバシーの問題などや個人の意識、意欲によるところも大きく、なかなか特効薬的な対策も見いだせないのが現状かと思えます。以前のように青年団といったような団体もなくなり、若者が個人個人で活動したり、趣味を通じた交流など、出会いの場も少なくなってきたのではないかと思います。幅広い視野での交流と結婚問題に対し、どのようにお取り組みになるか、村長のお考えをお伺いいたします。

以上です。

議長（村松 積） 伊藤村長、答弁願います。

村長（伊藤 喜平） 小池議員の質問にお答えいたします。

まず最初に、若者定住促進住宅の建設計画についてでございます。この前も協議会で話ししたとおり、今回は11棟目は企業向けの独身住宅を造ろうじゃないかということで発表いたし、先般入札も済んだところでございます。

今ご承知のように、先ほど申しましたように、サブプライムローンだとか、原油高。特に原油高等によりまして燃料の高騰、一時より倍ぐらいになった時もあるわけでございますけれども、そうしたところで、独身者が通勤する場合の費用もなかなか大変でございます。企業も相当負担しておる面もあるわけでございますし、特に長寿化社会になって福祉に従事する皆さんが、なかなかその集まらないというようなことも現実聞いております。下條村でも、そうした施設に対して多くの皆さんがお世話になっておるわけでございますので、そうしたことがあってはいけないということで住宅に踏み切ったわけでございます。

5棟の3階建てということで、15戸を道の駅の10棟目の横に造るわけでございます、11月から着工ということでございます。

内容も相当にグレードが高いわけでございますし、狭いということで普通のは3万6千円でございますけれども、2万8千円くらいに今想定しておるわけございまして、村としても採算性も合うし、企業も非常にいいということでございます。

平成9年から今日まで10棟、集合住宅だけで10棟建てました。入居者が590人になっております。

各自治体の状況を見ますと、集合住宅は建てたいんですけども、入ってくれる人がおらんのだらどうするかということで、名前を聞いて確実に入ってくれるかということで4戸建てだとか6戸建てを時々建てるようでございますけれども、下條村は造れば入っていただけるということでございます。それもしかもしかもグレードの高い皆さん、若者が入ってくれるということでございまして、ありがたいことでございます。

入居者数が590人という、約600人入っておっていただくわけございまして、これを最初からやらなかったら今の4,250人が3,660人くらいになる。普通の村になってしまうわけでございますし、高齢化率も45%くらい行くんじゃないかと思っておりますけれども、今高齢化率も29%でとどまっております。非常に郡下でも若い村になってきたということでありがたいことでございますけれども。

これからどうするかということでございますけれども、これから情勢がどう変わるかということ、1年先はなかなか読めないということと、前から申しておるように、時又地籍で今戸建て住宅の販売がぼつぼつと始まりました。これは相当の大手がやっておるわけでございますけれども、その状況を見極めながら、また対応していくということでござい

す。

次に、戸建て住宅でございますけれども、確か先般も答弁したと思っておりますけれども、住宅が狭くなる。そうすると出てどっかに家を建てたいという形が、今時々は入れ替わりがあるわけでございますけれども、その30%が村内に家を建てただけ。歩止まりが非常にいいわけございまして、この流れの中で今中原団地40区画を造りまして、あれよあれよという間に売り切れてしまいました。

それから大原地籍でございますけれども、15区画、これ抽選でなければ収集がつかないかなと思ったら、やはりこの景気の先行きを見て、今15の中で9棟売れておるそうでございます。

これは造成はいつも申しておりますように村でやり、そしてその全戸を業者の方に丸投げで売ってしまっておるわけございまして、これからも業者とよく連絡をとりながら1日も早く売り切ってしまう、次の段取りに入りたいと思っております。

そこで若者が戸建てを造るために村で補助金を出したらどうかということでございますけれども、これも非常に問題があるし、総務省の方でもなかなか答えが出ないということは、今議員申しておったように、税金を持ってきて、その税金を個人の資産に移し替えるということ、これはちょっと考えによっては問題かなということと、その地域に既に40戸も50戸も村の造成したところに家が建っておるわけでございます。その人たちの対応をどうするのかという、これ非常に難しい問題があります。

それで村としましては、さらに村のグレードを上げて、「住むんなら下條村に住んでみたいな、少くく補助金がなくても下條村に住んでみたいな、住んでみたいな」という村にしていくことがいの一歩であろうかと思っております。

よくこの過疎地でいろいろ結婚したらものすごい金出す、定住してきたら何出すなんていうことをやって、そのすべてが失敗しております。補助金を出さずに住んでやっておる。そうしたら働かん、パチンコばっかやっておる。「冗談じゃないじゃねえか」と言ったら「ありがとうございました」といって出ていくような例が多いわけでございますけれども、それは餌で魚を釣るということでなしに、肥沃な土壌を作って「下條村に住んでおれば幸せになれるぞ」というグレードアップが最大の効果であろうと思っておりますので、基本的にはそういうふうにはやっておるところでございます。

それからもう1つは、結婚問題でございます。

これは本当に弱った問題ございまして、下條村の問題でなくて、全国的な問題でございます。

議員指摘のように結婚相談員というのをやって、長年頑張っていたいただきました。これがなかなか成果が上がらないということで、ほとんどの市町村で結婚相談員制度というのをやめてしまいました。下條村でも18年にやめてしまいました。これもグレードの問題であるということと同時に、行政にできるだけ女性の皆さんを多く参加していただいて、割と農業委員会の中でお互いに仲良くなって、「どっかこんな人がおらん」とか「こんな人がおらんとか」というような形で話のまとまる場合もあるわけでございますし、私自身も中国に何回も行って、結婚のお話に行ってまいりました。歩止まりが非常に悪くて4割くらいかな、いろいろこの国民性の問題、それから生活習慣の問題、文化の問題等において、ちょっとしたことでいろいろトラブルがありましたけれども、4割はうまくいっているということでございます。

何もしなければ何も起こらないということでございますけれども、これからもう一発行ってみるかなということと同時に、これもやはりグレードを高くして、一生懸命やるとということと同時に、今度の独身寮の狙いもそこにも若干あるわけございまして、特に介護施設、若い娘さんがあの寮に泊まっていただけになると、下條村によくなじんでいただいて、若者と何かまた合コンみたいなものをやりながら、その機会を作ってみたいなど思っております。

そういうことで、一朝一夕にはいかないわけでございますが、もう1つ、首都圏下條会、下條人会においては「繭の会」というのを作って今度の会報にも大きく出ております。その皆さんも一生懸命やっておっていただくわけございまして、これからも総合作戦。基本的には下條村のグレードをさらに上げるということ。そしてまた女性にも多くの機会に積極的に接触してもらおうということ。

もう1つは、あらゆる機会を捉えて、あらゆる団体でもまた一生懸命やっていただくということと、中国ももう一度考え直してみるかなというようなことございまして、これも早急に結論を出すつもりでございます。

そういうことで、これはなかなか全国的な問題、特に下條あたりはまだ結婚する人が多

いでもいいんですけれども、40組くらい結婚してくれますけれども、全然結婚2つくらいというところもありますし、1年間に子供が1人も生まれなかったというような村もあるという現実でございます。

私どもは、そういうことの中で、さらにみんなが希望の持てるような、さらにそしてみんなが瞳輝かして住めるような下條村にまた全員で一步一步前進していくつもりでございます。

これは大きな情報があるわけでございますので、ホットな情報、大いにお聞かせいただいて、村でもまたご支援できることはできるようにして、全員参加作戦でやってまいりつもりでございますので、よろしくご理解いただきたいと思っております。

議長（村松 積） 1番、小池昌人君、再質問がありましたら。